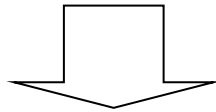


(別紙)地震発生時の行動マニュアル

地震直前

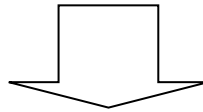
地震予知警報が出たら、周りの人に知らせ、身を守る準備

1. 場内放送 → 職員、受託者、市民への周知
2. 安全の確保 → 安全な場所への避難(机の下へ)、工場設備の停止



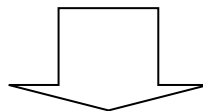
地震発生

1. 身の安全を守る(初期避難) → 机の下等へ
2. 安全の確保 → 工場設備の停止、非常脱出口の確保(ドアを開ける)



地震発生直後（揺れがおさまったら）

1. 安全の確認
 - (1) 火元を確認 → 火が出たら、落ち着いて初期消火
 - (2) 作動中の工場設備の停止 → 損害の拡大防止
 - (3) 同室の安全確認 → けが人の確認
 - (4) 状況の把握 → 情報の収集と一元化
2. 避難指示(第一次避難指示) → 火災・倒壊等の判断



地震発生後（1分後）

1. 場内で助け合う → 場内で機械等の下敷きになっている人がいないか確認
2. 余震に注意 → 建物の状況により余震で倒壊する恐れのある場合は、指定の避難所に移動(第一次避難)
3. 情報の収集 → 被害状況、地震(津波)情報、各班の活動状況の収集
4. 津波から回避 → 津波警報の発令を確認し、安全な場所に避難(第二次避難)

※ 収集時における地震対応

1. 地震予知警報が出たら

業務用無線、ラジオ等により地震予知警報を知ったら、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する。

2. 揺れを感じたら

(1) 急ブレーキは禁物です。ハンドルをしっかり握り、前後の車に注意しながら徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する。

(2) エンジン进行を切り、揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオから情報を入手する。

(3) 避難の必要がある場合は、車のキーはつけたままにして、ドアをロックしないで窓を閉める。

(4) 連絡先を見えるところに書き、車検証などの貴重品を持ち、徒歩で避難する。状況の把握 → 情報の収集と一元化

3. 情報の収集

業務用無線、ラジオを活用し情報を収集する。特に業務用無線は車同士の連絡を取り合うことにより地域の最新情報が入手できる。但し事務所の無線機は停電になると使用できない。

4. 津波対応

沿岸部での作業中に津波警報が発表された場合や、震度4以上の地震を感じた場合、また弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた場合は徒歩により近くの高台に避難する。車による避難は停電により信号機が消える等、渋滞により避難できなくなる恐れがある。

時間的余裕がある場合の避難先は、クリーンセンター及び最終処分場とする。

- 東海・東南海・南海地震が発生してから市域沿岸部に、津波の第1波が約45分後に到達し、2mに達する津波高は約2時間20分後、最高津波高である3.81mは約3時間後に到達する予測です。但し震源域によっては、想定時間より早く津波の来襲する恐れもあります。

※最近の研究によると3連動の地震が発生した場合、従来予測の倍の高さの津波が発生すると予測されています。